

神戸ポートタワー 国登録有形文化財銘板きょう除幕式

ミナト神戸の象徴として、半世紀以上も神戸港を見守ってきた神戸ポートタワー。昨年7月、国の登録有形文化財への登録が決まり、その証しとなる銘板が文化庁から届き、除幕式がきょう20日、同タワー前で開かれる。観光客にも地元市民にも愛されてきた神戸ポートタワーが、2017年の神戸開港150年に向けて、また一つ新たな歴史を刻む。

神戸ポートタワーは1963(昭和38)年、神戸開港90年事業で建設された。神戸港振興協会では当時、神戸港への船舶貨物の誘致と合わせて、市民に親しまれるウォーターフロントエリアの開発を推進。当時の会長で神戸市長だった原口忠次郎氏が、オランダ・ロッテルダム港を視察したときに見たタワーからヒントを得て「神戸にも港全体を見渡せるタワーを」と建設計画が持ち上がった。

神戸開港90年事業で建設 日本初の鋼管パイプ構造



「登録有形文化財」の銘板。除幕式は20日午前11時から神戸ポートタワー正面玄関前で行われる

突堤から第4突堤までが港の中心。その港を一望できる場所として中突堤が建設地に選ばれた。中突堤には和歌山や淡路、四国、九州、沖縄を結ぶ定期客船が多く就航しており、神戸を訪れる観光客を歓迎するにも絶好のロケーションだった。同タワーは日本で初めての鋼管パイプ構造で建築された。パイプを敷型に組み上げた斬新で優美なデザインは、日本建築学会作品賞など数多くの賞に輝いてきた。

国登録有形文化財 観光資源などとして活用しながら文化財の保護を図る制度。建造物は原則として築50年以上が対象。神戸ポートタワーはミナト神戸のシンボルとしての価値に加えて、全国初の鋼管パイプを使った構造やデザインなどが評価された。兵庫県内では累計で全国最多の591件が登録されている。

「鉄塔の美女」 ミナトに愛を

海、山、空に映える赤い姿

2010年には開業以来の大規模なリニューアルを実施。鋼管の塗装を一度はがした上で全て塗り直し、鮮やかな赤いタワーがよみがえった。さらにフルカラーの発光ダイオード(LED)7000個を追加設置したことで、多彩なライトアップを演出できるようになった。

人気のライトアップの一つが毎月第一日曜日の「神戸プロポーズの日」。午後7時59分、タワーが砂時計のイルミネーションになってプロポーズのタイミングを演出。午後8時にはシャンパンパールのデザインに変わり、祝福ムードを盛り上げる。14年12月には「恋人の聖地サテライト」(静岡市のNPO法人が認定)にも選ばれ、プロポーズにふさわしいロマンティックなスポットとして親しまれている。

7000個のLEDで多彩な演出



一方で、昔からの地元ファンの間では従来の溢光照明を継続してほしいとの声も根強い。現在LEDと溢光を組み合わせて光を演出している。

神戸ポートタワーの特徴は、観光客だけでなく地元市民にも親しまれているところ。13年には入場者が延べ2300万人を超えた。最近では外国人観光客も増えているという。

シンボル。同振興協会は「これからの季節は山の緑、海と空の青に赤いタワーがよく映える。最近はずっと高いタワーも登場しているが、神戸ポートタワーには歴史と伝統がある。今後も皆さんに愛されるタワーとして、港の発展に貢献したい」と話している。

タワーは年中無休。3、11月の営業は午前9時〜午後9時(最終入場午後8時半)。入場料は大人(高校生以上)700円、小中学生300円。

開港150年向け 記念事業計画

2017年の神戸開港150年に向けて、関係団体、行政、市民らが一体となった「神戸開港150年記念事業実行委員会」(会長 川久喜造神戸市長)がこのほど設立された。市民と一緒に節目を祝い、神戸港により親しみをもってもらうため、今後さまざまな記念事業を展開していく。

事業内容は市民から募った提案などを参考に検討。記念事業をPRするため公募したロゴマークも選考中だ。大きな節目に向けて、官民一体となって準備が進んでいる。

NMB48岸野さん 一日タワー長に



NMB48 岸野里香さん

除幕式は20日午前11時から、神戸ポートタワー南側正面玄関前で行われる。アイドルグループ「NMB48」の岸野里香さん(兵庫県出身)がポートタワーの一日タワー長を務め、お祝いムードを盛り

り上げるとともに、登録のPRに一役買う。また22日までの3日間は、入場者特典として各日先着50人にオリジナルボールペンがプレゼントされ、夜は七色のイルミネーションにライトアップされる。